

平成24年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	寡婦医療費助成事業			基本目標	医療体制の整備			
担当課(局)・係	健康福祉課	子ども支援係	記入者	佐藤 留美	評価者	河野 辰己	開始年度	H8 年度

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	対象(誰を・何を)	60歳以上70歳未満の寡婦で扶養義務者と生計を同一にしていない者(所得制限あり)										
	意図・目的	医療費の一部を助成することにより寡婦の健康増進と福祉の向上を図る										
事業の内容	助成対象者1名につき、一診療月保険診療分負担額の合計から1,000円を差し引いた額を助成。いったん一部負担金を医療機関に支払った後に払戻の手続きをする。											
23年度決算額	87	千円	24年度予算額	252	千円	事業従事者数	H23 0.01	人	H24 0.01	人		
主な支出項目	扶助費	87	千円	国庫支出金		千円	23年度人件費	71 千円				
			千円	県支出金		千円	24年度人件費	71 千円				
			千円	地方債		千円	24年度予算額における一般財源の割合(H24)	100.0	%			
			千円	一般財源	252	千円	根拠法令・要綱等があれば記載してください					
			千円			千円	高鍋町寡婦医療費に関する条例					
町の補助事業	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 町単独補助 <input type="checkbox"/> 国県補助			補助事業名		-						
	補助交付団体			-		補助金要綱		-				
	23年度	補助額	-	千円	補助の形態	-	H24年度補助額	-	千円	終期	-	年度
		団体の決算額	-	千円	H23年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等							
		補助の割合	-	%								
繰越額		-	千円									

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	1 町負担金額	一部負担金(3割)から高額療養費、付加給付費、自己負担額を差し引いたもの
	2 受給者数	受給者は4人だった。
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	1 助成件数	56件助成した。
	2	
	3	

◎達成状況

指標名	単位	22年度	23年度	24年度
		目標値	-	-
町負担金額	円	155,420	87,930	
	実績値			
	達成率	%		
受給者数	人	4	4	
	実績値			
	達成率	%		
助成件数	件	84	56	
	実績値			
	達成率	%		
活動指標	目標値			
	実績値			
	達成率	%		
活動指標	目標値			
	実績値			
	達成率	%		

事務事業名	寡婦医療費助成事業	担当課(局)	健康福祉課
-------	-----------	--------	-------

◎事務事業の評価

	担当者記入欄	評価する項目	点数 自己 評価
妥当性 (必要性)	公共性を考えると、町が行うべき事業である。同様の事業は、他課・他団体では行っていない。扶養義務者と生計を同一にしていないことが条件の一つとなっているため、問い合わせは年数件あるが、新規受給者が少ない。そのため、事業廃止による影響は少ないと思われるが、既受給者の経済的負担が増加し、生活状況が悪化する懸念が生じる。	◎目的からして町が行うべきか	2
		◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2
		◎社会情勢(住民ニーズ)に適應しているか	0
		◎事業廃止による影響があるのか	1
有効性	受給者が少ないため、成果については慎重に検討する必要がある。	◎目標に対して成果は得られているか	1
		◎すでに目的は達成されていないか	1
効率性	制度の改正等について検討が必要と思われるが、当事業を実施している他市町村とほぼ同じ条件で実施しているため、慎重に行う必要がある。	◎活動量の効果は実際に上がっているか	1
		◎費用対効果が十分に認められるか	1
協働性	当事業の性格から考えると、町民との協働の余地はない。	◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	0
合計(最高18点)			9

※町補助をしている場合のみ記入

公益 平 性 (公正性)		◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	
		◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	
		◎町民の理解が得られる事業であるか	
合計(最高4点)			0
その他			

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合 評 価	◎担当者の方針に対する 評価者としての所見  ◎統括者として、どのよう に事業を進めるべきと考 えているか、等	対象者は少ないが、経済手 駅基盤の弱い高齢寡婦等の負 担軽減のため継続事業とする。	今後の方向性			
			事業 の 方 向 性	拡充	維持	縮小
				○		
			廃止	縮小	維持	拡充
			コスト			

◎事務事業評価委員の意見等

<ul style="list-style-type: none"> <li>寡婦の健康増進の一つとして行うべきだが、制度自体の内容を検討すべきである。</li> <li>現在の社会情勢や医療制度等を考慮した制度の再検討が必要ではないか。</li> <li>対象者が少ないこと、70歳以上の医療費負担を考えると助成要件を見直すことも必要だと考える。</li> </ul>	◎今後の方向性
	事務事業評価委員会
	判定: 維持
	外部評価委員会
	判定: /